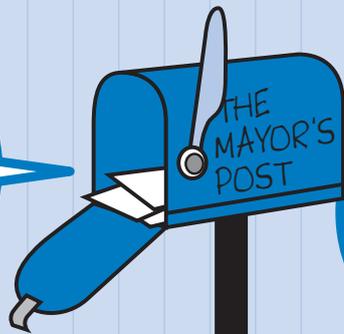


# 市長への手紙



## 互いに助け合うUD社会を

最近、多くの市民に認識されるようになってきた浜松市のユニバーサルデザイン（UD）。そんな傾向を裏付ける手紙を西区在住の市民からいただきました（誌面の都合で内容を一部編集しています）。

「UDも浸透してきたな」。そう思っているところに「チェンジ！ハママツ」が届きました。

子どもを二人連れて新しい建物に行けば、障がいのある人や妊婦用の駐車場が建物の入口付近にありますし、入口までの段差にはスロープがあり、高さの違う2本の手すりも設置されています。この手すりが子どもたちはうれしいらしく、「こっちがママ用、こっちがぼく用ね！」と言って、わたしと手をつながなくても自分から歩いてくれます。

上の子が身長120センチ、下の子は90センチ。まだまだ大人と同じ規格だと不便を感じる 때가数多くあります。（本人たちはもう一人前の気分であるようです。）

生まれてから死ぬまでには状況が多

様に変化していきます。実際に経験してみないと分からない不便さというものもあります。ハード面で対応できる部分は今後さらに整備していただき、対応しきれない部分については周囲の人々と自然にかかわりあって助け合える社会になるよう働きかけて欲しいと思います。ほかの国や都市に住んでいた人が浜松に住みたくなるぐらい、もっと魅力ある街になるといいですね。

〔浜松市の交通安全〕をテーマに、市長への手紙を広聴広報課まで郵便、ファックス、電子メールでお願いします。字数は300字程度。匿名でも構いません。住所などは裏表紙に記載。締め切りは平成22年11月30日）

※当コーナーへ寄せられた主なお手紙は次回の誌面で紹介させていただきます。なお、個別に回答はいたしません。

### 特集タイトルの由来

#### 武器よさらば

A farewell to Arms

（ヘミングウェイが1929年に発表した長編小説）

### 事故の悲惨さを実感し、 真の交通安全社会を構築

米国の著名な小説家・詩人で、ノーベル賞作家であるアーネスト・ヘミングウェイは、第1次世界大戦中、イタリアで従軍記者を経験。その時、目撃した戦場の悲惨さをベースに「武器よさらば」を著しました。わたしたちも交通事故の悲惨さを自分のこととして感じ、「事故よ、さらば」と宣言できるほどの交通安全社会を築き上げたいものです。